

「マッハ車検 GR Supra GT4 EVO」 デビュー戦の富士 24 時間で 6 位



「マッハ車検 GR Supra GT4」は、5 月 24～26 日に富士スピードウェイ(静岡県)で開催された ENEOS スーパー耐久シリーズ 2024 第 2 戦「NAPAC 富士 SUPER TEC 24 時間レース」に参戦。今季は新車の EVO モデルを投入し、車名、カラーリング、カーナンバーを変更し新体制のデビュー戦となったが、激戦区の ST-Z クラス 11 台中 6 位で完走。次戦オートポリスに向け多くのデータも収集できた。

福岡に本拠を置く Team Noah(代表: 清瀧雄二)は、“九州に元気を！九州のモータースポーツにもっとワクワクを！”を合言葉に九州のレーシングチームとして 2018 年より S 耐に参戦を開始。2021～22 年はホンダ・シビック TCR で ST-TCR クラスチャンピオンを獲得した。また富士 24 時間レースでは 2018 年と 2022 年の 2 回、ST-TCR クラスの優勝を飾っている。今季は GR Supra GT4 EVO の新車を投入。新たなスポンサーを迎え、車名、カーナンバーも変更した。熊本にルーツを持つ金丸ユウをエースドライバーに迎え、熊本在住の塚田利郎、大分出身の森田真心(こころ)、ST-3 クラスで鍛えた富田自然(あるが)、2021 年開幕戦以来の合流となった谷岡力、そして福岡在住の清瀧、計 6 名で 24 時間レースに臨んだ。チームは開幕戦 SUGO をスキップしているため、実質これが今季開幕戦である。

今回富士 24 時間レースに出走した車両は、過去最高となる 8 クラス 58 台。ST-Z クラスは、GR スーブラ、Z、ポルシェ・ケイマン、メルセデス AMG と国内外の GT4 マシン 4 車種計 11 台が出走した。24 日は朝から雲の多い晴れ。公式予選は A、B ドライバー 2 名のベストタイム合算で争い、塚田と金丸のタイム合算の結果、総合 13 位、クラス 5 位となった。

3 日間の入場者数は過去最高の 5 万 4,500 人で、コースサイドには数多くのテントが並びバーベキューを楽しむファンが定着した。そして 25 日の 15 時ちょうどに日本一長い耐久レースが始まった。スタートを担当したのは金丸で、4 位争いを展開。1 時間 20 分ほどで予定どおりにピットインすると、塚田、森田、とつなぎ富田がダブルスティントを担当。この時間帯には日が落ち、20 時過ぎには恒例の花火が打ち上がり夜空を彩った。花火が上がる前から霧雨が落ちていたが、コースを濡らすことはなかった。すっかり暗くなると清瀧がコースへ。ピットインのタイミングもあり一時は 7 位へ順位を落とした時間帯もあったが、6 位へ順位を上げた 23 時ごろから霧雨がコースを濡らし出してコースはウェットコンディションとなった。夜中は若い金丸、富田、森田がダブルスティントを担当し、義務付けられた 10 分以上のメンテナンスタイムも消化した。

徐々に明るくなると雨も上がりやがてコースは乾いてきた。ドライバーは塚田、谷岡、森田とつなぎ、塚田が 3 回目のスティントへ。この時間帯は既に前後の順位の車両とは差がついており 6 位という順位がほぼ確定したことで、チームは次戦オートポリスに向けてさまざまなセッティングを試すことにした。塚田、金丸が何度もピットインしてセッティングを確認。最後は富田がコースインして、15 時過ぎに 24 時間レースのチェッカーをクラス 6 位、総合 13 位で受けた。

今回のレースを完走することで多くのデータが取れ、セッティングも試すことができ車両の改善点も見えてきた。次の第 3 戦はチームの地元オートポリスで 7 月 27～28 日に 5 時間レースとして開催される。

塚田利郎「レースの最後は次のオートポリス戦を見据えてセッティングをいろいろ試しました。もっと充実したレースができるように準備します。いきなり新車を持ち込んで勝てるようなレースではありませんし、6 位というのは現在地かなと思います。次は地元で頑張ります」

金丸ユウ「昨年までのデータを使わせてもらってクルマを作っていたのですが、途中の雨でそのプランも変わってしまいました。最後は次のオートポリスのレースのことを考えていろんなセットを試して走りました。これからクルマを進化させられればと思います」

森田真心「チームが目標としていた表彰台には届きませんでしたが、完走できて良かったです。これまでフォーミュラに乗っていて初めてのハコのレースでしたが、まだまだ学ぶことは多く早く先輩たちに追いつきたいです。チャンスをいただけたので次に生かしたいです」

富田自然「最後は気持ち良いゴールが切れました。初めての GT4 車両で目まぐるしく変わるコンディションでしたが、個人的には勉強になりましたしある程度チームに貢献できたかなと思います。いろんな課題も見つかったと思うので、これから進化して必ず勝ちたいです」

谷岡力「レースはしばらくやめていたのですが、いくつかお話をいただいて数年ぶりに古巣でレースができました。練習走行は調子良かったのですが、レースではチームに貢献できませんでした。チームの雰囲気はとても良く楽しい週末を過ごすことができました」

清瀧雄二「1 スティントのみ担当しましたが、新車のぶっつけ本番であったにもかかわらずメカニックのお陰でよくここまで仕上がったなという思いです。ただ上位グループに絡んでいくにはドライバー、セット共にまだまだやらなければならないことは多いなという感想です。次戦は地元開催なのでいいところをお見せできるレースをしたいですね」